

日本英語教育史学会 会報

269

2015 年 6 月 20 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番
東京電機大学工学部英語系列 河村和也研究室

tel: 03-5284-5641 fax: 03-5284-5699

e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店【普通】0997182

学会公式ウェブサイト: www.hiset.jp

第31回全国大会 (九州大会) 報告

2015 (平成 27) 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日), 久留米工業高等専門学校 (福岡県久留米市小森野) において, 第 31 回全国大会 (九州大会) が開催されました。初日は西忠温 (元崇城大学) による「熊本洋学校お雇い教師 Captain Janes の英語教育と熊本バンドーその源流を辿りながら」と題する記念講演と 3 本の研究発表が行われました。第二日は 8 本の研究発表が行われ, 2 日間で 28 名の参加者が集いました。ご参加の皆様, 関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。以下に出席者の感想を掲載します。ご参照ください。



久留米工業高等専門学校図書館正面にて (2015. 5. 16)



西 忠温 氏



西原 雅博 氏



馬本 勉 氏



田中 正道 氏

◆【第 1 日目について】

日本英学史学会との共催で長崎の地に集って以来の九州大会となりましたが、まず、大会会長をお受け下さった久留米工業高等専門学校三川譲二校長先生が、史学をご専門にされることもあって、十分にご準備下されたご挨拶をいただき、感激しました。先生にはまた、懇親会や 2 日目の研究発表にもご同席下され、篤く御礼申し上げます。

西先生の記念講演は、いつもの研究意欲満々のお話で、ジェインズ、熊本バンドを巡るご高話を伺って、本大会が福岡大会、あるいは久留米大会ではなく、九州大会と銘打たれていることに納得いたしました。これに続く研究発表も、それぞれテーマを通して続けておられるご研究の一端をお聴きし、得るところの多いご発表でした。

懇親会は、さすがブリジストン城下町を想わせる雰囲気のもと、まさに旧交を温める時間となり、また、三川校長先生からもいろいろとお話が伺えて、楽しいひと時でした。

【第 2 日目について】

研究発表 8 本が、会場を移動することなく全て聴くことができ、さらに初日と併せ、学会重鎮が揃って発表されるなど、他の学会ではあまり見られないのではないかと、わが日本英語教育史学会に対して自負の念を強くするものとなりました。ただ、これはあわせて、若手会員の発表をさらに促さねばならない事態だとも感じ、研究例会とともに、この点にいかに対応

するかの検討が必要かと思いました。

午後の福岡修猷館高校の蔵書展観は、安部先生のご高著によってリストは見ていたものの、やはり現物を見ることの感激は何物にも代えがたく、ご準備下された安部先生、隈先生、ならびに、当日お世話下された図書館員の方に篤く御礼申し上げます。

(Dragon)

◆【第 1 日目について】西忠温氏・・・「伝聞・推定」を排し、「現地調査」に徹した西先生の研究アプローチは後進への最高のお手本になっていたと感じました。先生のご講演を拝聴し、郷土の教育への熱い思い、ナンバーズクール五高の学統、熊本の「文化力」に圧倒されどおでした。

西原雅博氏・・・「文検」については寺崎昌男・「文検」研究会編(2003)ならびに庭野吉弘(2008)などの著作を通じて大まかな理解はしているつもりでしたが、今回、西原先生の詳細なご研究を拝聴しより深く「文検」について勉強することができました。私の院生時代の講座主任は「文検」経由で教授になられた方で、恩師の教養・語学力は「恐怖」を感じるほどの実力でした。

馬本勉氏・・・明治期英語独習書研究シリーズのうち、今回は「英文典」からの訳読史を学ばせていただきとても勉強になりました。明治期の訳文の「進化」の要因には漢文の素養があったからと思う反面、今日の漢文フリー、国語力衰退の時代にあっては訳文の「退化」が気になりました。



島岡 丘 氏



川嶋 正士 氏



田邊 祐司 氏



与那覇 恵子 氏

【第 2 日目について】

資料展観について・・・若かりし頃、浅学菲才は承知のうでやぶれかぶれで W. Viëtor の著作 2 点にアクセスしたことがあり、今回頂戴した資料リスト中に「改革運動」の元祖 W. Viëtor の Phonetic Method に関する著作が含まれていることを知りとても興味を持ちました。当時の修猷館の英語科の先生方の高い見識に感動しました。

大会運営全体について・・・大会事務局、大会実行委員会の諸先生の周到な準備で大会全てがよどみなく清流のように進行していました。爽やかで参加しがいのある学会でした。懇親会も文字通り和やかな雰囲気、美味しい懐石料理は忘れえぬ思い出となりました。

(もみじまんじゅう)

◆西先生の記念講演に始まり、教授法研究、教科書研究、文法研究、音声研究、教育政策研究、そのほか個々の研究と盛り沢山の内容に、さすがは全国大会だと感じさせられました。その個々の内容はもちろんのこと、英語教育史の研究アプローチについてもそれぞれ学ばせて頂きました。(上野舞斗)

◆多くの貴重なご発表を伺いました。感じたのは史的実は様々な背景で意外に繋がりがああるものだという事です。また、懇親会で 1 年振りで親しく話し合えたのも良い収穫でした。新しく知り合いになったのもありがたかったです。懇親会を準備された諸先生は地元の粋を凝らしたお料理を用意されたのもありがたかったです。私の特殊な発表も、1993 年の初期のときよりは、随分と友好的で、励まされた感じを受けました。皆様のご厚意に甘えることなく、SKT を続けて行きたいと思いました。(島岡丘)

◆2008 年の英学史学会との合同全国大会に続き、今回 2 回目の九州での全国大会でしたが、研究と呼ぶに相応しい中味の濃い発表でどれも質の高いものでした。発表された先生方が丁寧に研究されて積み上げて来られたのを感じるとともに、フロアの先生方の熱心な参加も印象的でした。やはりこれまでのように部屋を分けず一室で全ての発表を聞ける態勢が良かったです。また、実行委員にあられた先生方の対応や気配りに頭が下がる思いでした。2 日間ありがとうございました。(H.Z)

全国大会の一コマ





河村 和也 氏



江利川 春雄 氏



松崎 徹 氏



拝田 清 氏

日本英語教育史学会第 31 回全国大会記念講演

「熊本洋学校お雇い教師 Captain Janes の英語教育と熊本バンド —その源流を辿りながら—」概要

1. 日本三大バンドでの位置付け
2. 熊本洋学校設立の背景と経緯
 - (1) ・洋学受容の歴史 ・開明思想家 横井小楠 ・横井大平兄弟のアメリカ留学と提言
 - (2) 帰朝者 横井大平 (沼川三郎) / 幹事 野々口為志 / 藩主 細川護久の尽力
 - (3) 開成学校教頭 Verbeck, NY オランダ改革派教会主事 Ferris の斡旋と Captain L.L. Janes (1837-1909) の招聘
3. 洋学校における英語 (洋学) 教育
 - (1) 教科書
 - (2) 教授方法 “the first English Immersion Program” と教育方針
 - (3) 成果
 - (4) 信仰の曙光
4. 花岡山の結盟と奉教趣意書署名 / 迫害と閉校
5. 洋学校の精神を受け継いだ私立学校
6. 新島襄の同志社英学校へ出校した肥後のメイフラワー号
7. 第 1 回卒業式 (1879 年) 演説会テーマが示唆すること
8. 「熊本バンド」メンバー 41 名の経歴概観
9. その後の Capt. Janes と教え子との交流
10. 熊本バンド 140 年を前に熊本での顕彰の取り組み
 - (1) シンポ・トーク・勉強会 (2009 年～)
 - (2) 『ジェーンズ事典』編纂
 - (3) 英文『ジェーンズ熊本回想』全和訳

研究発表タイトル・発表者一覧

【 第 1 日 】

- ・ 明治英語教授国家基準「改正中学校教授要目」の伝達—「文検英語科」による伝達ルートに焦点をあてて—西原 雅博 (富山高等専門学校)
- ・ 明治期英文典独習書の分析研究馬本 勉 (県立広島大学)
- ・ 満州医科大学予科入学試験 (英語) の解析田中 正道 (広島大学名誉教授)

【 第 2 日 】

- ・ 英語の発音 —SKT の史的意義—
島岡 丘 (筑波大学名誉教授シニア・プロフェッサー)
- ・ 「5 文型」断章川嶋 正士 (日本大学)
- ・ 日本英語音声教育史：大谷正信が伝えた Daniel Jones の音声学講義田邊 祐司 (専修大学)
- ・ 小学校英語教育史に見る米軍占領下の沖縄 1945～1953—何故英語は第二言語と成りえなかったのか—
与那覇 恵子 (名桜大学)
- ・ 電機学校の英語河村 和也 (東京電機大学)
- ・ 日本陸軍の外国語教育と情報活動江利川 春雄 (和歌山大学)
- ・ 戦後中学英語検定教科書における米語用法に関する一考察
松崎 徹 (筑紫女学園大学)
- ・ 「コミュニケーション」重視の英語教育政策を問い直す：1989 (平成元) 年版『学習指導要領』を中心に
拝田 清 (四天王寺大学)

謝 辞

日本英語教育史学会会長 江利川 春雄

このたびは第 31 回全国大会 (九州大会) の開催に関しまして、大会実行委員会の各位にはたいへんご尽力をいただき、誠にありがとうございました。とりわけ、安部規子先生、隈慶秀先生には、会場の手配から資料展観に至るまで、至れり尽くせりの周到なご準備をいただき、深く感謝申し上げます。素晴らしい会場をご提供いただいた久留米工業高等専門学校、とりわけ大会会長をお引き受け下さった三川譲二校長先生に心から感謝申し上げます。九州大会にふさわしい充実した内容の記念講演をいただいた西忠温先生、研究発表をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

おかげさまで、記念講演、研究発表、懇親会、福岡での資料展観と、たいへん盛況かつ和やかな雰囲気の中に、円滑に大会を終了することができました。九州地区からも新たな会員が入会されました。久留米高専の学生さんのキビキビした動き、学生・院生会員の献身的なサポートにも感動しました。学会役員各位におかれましても、拝田清理事をはじめ、いつもながらの献身的な支えをいただき、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第 31 回全国大会を終えて

大会実行委員長 安部 規子 (久留米工業高等専門学校)

会員の皆さま、5月16日17日に久留米高専で開催されました全国大会(福岡大会)にご出席下さりありがとうございます。私は今回実行委員長という大役を仰せつかりましたが、実際は隈慶秀理事が会計を含めて主要な責任を引き受けてくれました。二人で準備を進めたのですが、高齢化が進んだこの2名だけでは不手際も多く、初日の朝会長始め理事会の先生方が到着され、いつものやさしい笑顔に接した時にはほっといたしました。もみじ饅頭や東京ラスク、香川の固いおせんべいなど各地のお土産をいただき、お茶コーナーの準備もできました(隈先生も筑後の銘菓草木饅頭を用意してくれました)。また大会会長の三川譲二久留米高専校長は歴史が専門ということもあり、本大会にご関心を寄せて下さっていました。開会のご挨拶だけでなく発表も聞いて下さり懇親会にもご出席いただきました。

開会式が近づくと熊本から西忠温先生も到着され、総会の後、「熊本洋学校お雇い教師 Captain Janes と熊本バンド—その源流を辿りながら—」の題目で先生の講演が行われました。膨大な資料を示しながらのお話で、ジェーンズの教えが与えた影響の大きさ、またジェーンズと教え子との絆の深さに改めて感動しました。その後、西原雅博先生、馬本勉先生、田中正道先生の発表が続き、活発な質疑応答が行われました。

懇親会には久留米が誇るブリヂストンの施設「ブリヂストンクラブ」を会場に選びました。珍しい郷土料理がないと心配していましたが、さすがに世界のブリヂストン、隈先生がかけたプレッシャーの効果もあったか、大変おいしいお料理と皆様からお褒めいただきました。

2日目の朝の会場は、島岡丘先生がご発表「英語の発音—SKTの史的意義—」の準備を早々に整えられ待機される中、張りつめた雰囲気になっていました。川嶋正士先生、与那覇恵子先生が発表され休憩となりましたが、隈先生と交代した司会の竹中龍範先生はその後には一分の延長も許さないという気迫を漂わせて進行され、河村和也先生、江利川春雄先生、拝田清先生の発表は本当に深い内容でありながら時間通りに終わりました。

閉会式後出席者の皆さまが別れを惜しみながら笑顔で帰って行かれる様子に、あっという間の2日であったと感じました。しかし私にとって最後にして最大のパート「資料展観」がまだ残っていました。参加される皆さまはマイクロバスで高速道路を一路会場の福岡市総合図書館へ。(出発前には「安部：隈先生、バスは何時に来るんですか？隈先生：あ、しまった！確認するの忘れとった！」というスリルに満ちた瞬間もありましたが、バスはちゃんと校内に到着していました。)

今回見ていただいた展観資料は、修猷館高校所蔵の戦前の英語教材と辞書、そして英語試験問題等でしたが、これらは同校資料館改築のため一時的に福岡市総合図書館に移されています。これを一手に管理しているのが同図書館文学・文書課古文書係長の野口文氏で、私にはこれが千載一遇のチャンスに思えました。彼女の采配で修猷館高校の許可も得られ、今回の資料展観が可能になりました。これまで私が細々と発掘し記録してきた約120冊の戦前の英語教材その他を専門家でいらっしゃる本学会の先生方に直接見ていただくことができ本当にうれしく思いました。

大会後には、劳いの言葉や過分なお心遣いまでいただき、大変恐縮いたしました。多くの皆さまのご支援のおかげで大会を大過なく運営できましたことに再度お礼申し上げます。ありがとうございました。

》 2015年度 会員総会 報告

2015年度の会員総会は、大会初日の5月16日、開会式に引き続いて久留米工業高等専門学校図書館マルチメディア教室で開催されました。副会長の馬本勉氏（県立広島大学）の司会で始まった会は、最初に赤石恵一氏（日本大学〔非常勤〕）を議長に選出し、以下の議事を進行了しました。

◆活動報告・会計報告

事務局長の河村和也（東京電機大学）による活動報告（会務報告）ならびに会計報告に続き、安部規子氏（久留米工業高等専門学校）より会計監査報告がなされ、2014年度の会計報告については拍手をもって承認されました。

◆会則の改定（審議事項）

会長の江利川春雄氏（和歌山大学）より、会則の付則のうち事務局の所在地に関する規程を次のように改めたい旨の提案があり、拍手をもって承認されました。

付則（2） 本学会の事務局は事務局長の勤務先または自宅とする。

なお、今年度より事務局が以下に移転することが報告されました。

〒121-8551 東京都足立区千住旭町5番 東京電機大学工学部英語系列 河村和也研究室
電話：03-5284-5641（研究室直通） ファクス：03-5284-5699（系列庶務経由）
*メールアドレスに変更はありません。

◆学会英語名の変更（報告事項）

引き続き、江利川会長より、言語教育史研究の国際的ネットワークであるHoLLTに加盟するのを機に会の英語名を次の通り変更することが報告され、議論のうえ拍手をもって承認されました。

Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan (HiSELt)

なお、会の新しいロゴタイプはこの月報の表紙にある通りとなることがあわせて報告されました。

◆図書資料の寄贈と学会文庫の開設（報告事項）

事務局長より、健康科学大学（山梨県）から退職教員である千々岩佳史氏（故人）の個人蔵書1,300点あまりを寄贈したいとの申し出があり、理事の拝田清氏（四天王寺大学）の研究室で一括して引き受けることにした旨の報告がありました。

これまででも会では数名の会員から蔵書をお受けしていますが、それらと今回の寄贈図書を統括し「日本英語教育史学会文庫」を開設し、会員の利用に供する方針であることがあわせて報告されました。詳細については、次号以降の会報を通じて広報されます。

◆学会賞

今年度の日本英語教育史学会賞については、江利川会長より「該当者なし」との報告がありました。2年連続して該当者なしとなったことから、奮っての投稿を期待する旨のコメントがありました。

2014年度会務報告 -----

1. 全国大会

第30回全国大会は、2014年5月17日(土)・18日(日)の両日にわたり、東京の拓殖大学文京キャンパス(国際教育会館)を会場に開催した。

2. 学会誌

2014年5月、学会誌『日本英語教育史研究』第29号を刊行した。

3. 会員動静

2013年度中の入会者は4名、退会者は14名(うち連絡不能等による退会者は1名)で、年度末の会員数は123名となった。2015年4月以降、すでに5名の入会申し込みがあり、会員総会時点での会員数は128名である。

2013年度会計報告 -----

平成 26 年度 日本英語教育史学会収支決算報告

2014 (平成 26) 年 4 月 1 日 ~ 2015 (平成 27) 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
繰越金	1,456,204	月報関係費	59,196
学会費	485,000	事務活動費	233,271
紀要代金	0	大会補助費	50,000
広告代金	0	紀要経費	267,029
雑収入	46,460	雑費	28,197
寄付	178,000	支出合計	637,693
郵便局利子	575		
銀行利子	11		
収入合計	2,166,250	繰越金	1,528,557

以上相違ありません。

2015 年 5 月 16 日

事務局会計 河村 和也 印

会計監査 平賀 優子 印

同 安部 規子 印

1. 収入の部に関して

2014 年度末の会費納入率は 81.1%に達したものの、前年度比で 8.6 ポイントの減となっている。新年度は完納を目指して積極的に呼びかけたい。

2. 支出の部に関して

繰越金は1,528,557円で前年度比72,353円の増となり、昨年度に引き続き単年度の黒字を計上している。締めるべきときは締め、必要な出費に備えたい。

>> 事務局より

全国大会の終了後、今年も全国の会員のみなさまに向けて学会誌および会員名簿を発送しました。例年通り会費納入をお願いする文書（「紀要の送付と年会費の納入について」）を同封しましたところ、多くのみなさまにさっそくご対応いただき、あつく御礼申し上げます。

期限は特に定めておりませんが、その他のみなさまにおかれましても早期の納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

会 費 一般：5,000 円 / 学生：3,000 円
 送 金 先 ゆうちょ銀行：（振替口座）00150-3-132873
 三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店：（普通口座）0997182
 ＊口座名義はいずれも「日本英語教育史学会」です。

全国大会までに今年度分をお納めくださったみなさまには、納入日を記した文書（「紀要の送付について」）を同封してありますので、どうぞご確認ください。また、全国大会にお越しになったみなさまには、その場で会費をお納めいただき学会誌および会員名簿をお渡ししております。

なお、1年もしくは2年分の会費が未納の方には、この会報の発送に合わせて「会員継続のご案内」のみをお送りいたします。ご確認の上、よろしくご対応くださいますようお願い申し上げます。

（会計担当）

>> 新入会員（敬称略）

- | | | |
|------------------|------|----------------------|
| ・佐野 幹（さの みき） | 岩手県 | 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 |
| ・吉野 康子（よしの やすこ） | 東京都 | 順天堂大学国際教養学部 |
| ・久保野 雅史（くぼの まさし） | 東京都 | 神奈川大学外国語学部英語英文学科 |
| ・張 世霞（ちょう せいか） | 神奈川県 | 拓殖大学 |
| ・池田 恵（いけだ けい） | 和歌山県 | 和歌山大学大学院教育学研究科英語教育専修 |
| ・田口 純（たぐち あつし） | 福岡県 | 筑紫女学園大学 文学部 |
| ・田中 富士美（たなか ふじみ） | 東京都 | 中央大学総合政策学部 |

（名簿担当）

>> 2015 年度 研究例会の予定

研究例会は 5 月を除く奇数月の「第 3 日曜日」に開催します。ただし、今年度 9 月については秋の大型連休と重なり交通手段や宿泊施設の確保が困難と思われるので「第 4 日曜日」である 27 日に移動します。なお、7 月・1 月・3 月も連休に当たりますので、遠方よりお越しの方は交通・宿泊に充分ご注意ください。

- ◆ 第 253 回研究例会 2015 年 7 月 19 日（日）東京都で開催予定（pp.10-12 に詳報）
- ◆ 第 254 回研究例会 2015 年 9 月 27 日（日）広島市で開催予定
- ◆ 第 255 回研究例会 2015 年 11 月 15 日（日）東京都で開催予定
- ◆ 第 256 回研究例会 2016 年 1 月 10 日（日）東京都で開催予定
- ◆ 第 257 回研究例会 2016 年 3 月 20 日（日）大阪市で開催予定

＜第 253 回研究例会の発表概要＞

英語教育史入門セミナー (第 2 回)

「学校史研究・人物史研究のおもしろさ」

河村 和也 (東京電機大学)

いわば「閉じた」ものと思われる学校史が、時に「開く」ことがあります。書かれていないことへの興味・関心や人と人のつながりなどが、思いもよらぬ力となるようです。また、人物の評価というものは、誰が、いつ、どのような視点から語ったのかによってさまざまに変化するものです。思い込みを捨て、読み違いをなくすことによって、その実像に迫りたいものです。これまで、わずかながら学校史や人物史の調査をしてきましたが、「こんなことがおもしろい」とか「これだからやめられない」という経験を「ここはうっかりすると落とし穴だ」ということも含めてお話ししたいと思います。

研究発表

「明治期～現代の代表的英語教科書 9 種のリーダビリティ分析： Ozasa-Fukui Year Level, Ver. 3.4.2nhnc1-5 による分析」

河村和也 (東京電機大学)

馬本勉 (県立広島大学)

小篠敏明 (福山平成大学)

本研究は、明治期から現代において使用された英語教科書の英文難易度 (リーダビリティ) を、新開発指標を用いて新たに測定し、比較検討したものである。

分析された教科書は以下の 9 セット (45 巻) である。(1) Sanders' Union Readers (C. W. Sanders, 1861-63), (2) New National Readers (C. J. Barnes, 1883-84), (3) English Readers: The High School Series (W. Denning, 1887), (4) 『正則文部省英語読本』(文部省, 1889), (5) The Globe Readers (岡倉由三郎, 1907), (6) The Standard English Readers (H. E. Palmer, 1926-27), (7) The Standard English Readers (竹原常太, 1932), (8) New Jack and Betty: English Step by Step (1,2,3) (萩原恭平ほか, 1952), New High School English (1,2) (萩原恭平ほか, 1952), (9) Sunshine English Course (1,2,3) (島岡丘ほか, 1996), Sunshine English Course (1,2) (土屋澄男ほか, 1997)。

分析で使用された分析ソフトは、新学習指導要領のデータに準拠して新たに開発された指標・ソフト、Ozasa-Fukui Year Level, Ver. 3.4.2nhnc1-5 である。このソフトを用いることにより、分析対象の教科書英文を日本の教科書の学年との関係で数値化することができ、日本の教育システムとの直接的比較が可能となった。

前回の比較 (英語教科書の歴史的研究: 辞游社) では Flesch-Kincaid Grade Level というアメリカの学校教育用尺度を使用した。これは第 3 者の尺度で客観的な比較はできたが、日本

の現行制度との関係は知ることができなかった。今回は現行制度に基づいた尺度である Ozasa-Fukui Year Level を用いたためそれが可能となった。これが今回の測定の最大の特徴であり、利点である。

例えば、J&B, Globe, Dening, National 1 年の測定値 (学年平均) は、それぞれ、1.75, 2.55, 4.64, 2.82 であった。これは、J&B1 は現行中 1 平均 (1.5) より少し高く、中 1 の 3 学期レベル、Globe1 は 2 年平均 (2.5) レベル、Dening1 は高 1 平均強レベル、そして National1 は中 2 末レベルであることを示している。一般に Dening は難解な教科書であることが常識となっているが、1 年生用の教科書が現行高 1 レベルであることを知れば納得してもらえるのではないだろうか。

発表では 9 種の教科書の英文の難易度を現行教科書の視点から細かく分析し、歴史的英語教科書 9 種の実像に迫りたい。

研究例会での発表を希望する会員は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要(100～200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上 4 点を明記の上、発表希望月の前々月 10 日 (9 月発表希望であれば 7 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp
TEL&FAX 073-457-7433

『日本英語教育史研究』第 31 号投稿論文の募集

研究紀要『日本英語教育史研究』第 31 号への投稿論文を募集します。奮ってご投稿ください。投稿締切は 10 月 31 日 (土) (必着) です。送付要領は次の通りです。

- ①送付先：〒331-0825 埼玉県さいたま市北区榎引町 2-176-4 佐藤 恵一
- ②提出方法：原稿は、執筆者名を明記したもの 1 部と執筆者名をふせたもの 2 部を上記送付先に郵送してください。また、受領連絡用に宛て先を明記した葉書を 1 枚同封して下さい。
- ・刊行は来年 5 月の予定です。紀要 30 号に掲載の投稿規程および標準書式 (学会ウェブサイトからも閲覧可) をご参照ください。
- ・これまで論文が紀要に掲載されたことのない会員を対象に、「事前指導制度」を設けています。(一人 2 回まで。事前指導を受けた場合、投稿論文提出時に、事前指導をふまえていかなる改訂を行ったか、別紙に明記していただきます。) ご希望の方は、8 月 14 日 (金) 必着にて、上記宛先まで草稿 (途中段階で構わない) を 1 部郵送、もしくは草稿ファイルを電子メールで kiyo@hiset.jp 宛に送付してください。

EDITOR'S BOX 今年も蒸し暑い季節がやってきました。秋田は東北で涼しいと思われがちですが、それでも寝苦しい夜もあります。みなさま、体調を崩されることのないよう、どうかご自愛下さい。(若)

第 253 回 研究例会のご案内

日 時： 2015 年 7 月 19 日 (日) 午後 2 時～

会 場： 東京電機大学 東京千住キャンパス (東京都足立区千住旭町 5 番)

1 号館 10215 室 [1215 セミナー室]

当日は休日につき、出入りには 1 号館西側にある防災センター脇の出入口をご利用いただくこととなりますので、あらかじめご了承ください。校舎に正対し右手奥、交番の裏、みずほ銀行 ATM の先となります。なお、館内にお入りいただけるのは午後 1 時以降となりますので、あわせてお含みおきくださいますようお願い申し上げます。

英語教育史入門セミナー (第 2 回) : 「学校史研究・人物史研究のおもしろさ」

河村 和也 (東京電機大学)

研究発表 : 「明治期～現代の代表的英語教科書 9 種のリーダビリティ分析 :

Ozasa-Fukui Year Level, Ver. 3.4.2nhnc1-5 による分析」

河村和也 (東京電機大学), 馬本勉 (県立広島大学), 小篠敏明 (福山平成大学)

参加費 : 無料

問 合 先 : 日本英語教育史学会例会担当 (email: reikai@hiset.jp TEL&FAX 073-457-7433)

学会ウェブサイト : <http://hiset.jp/>

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】 (東京電機大学ウェブサイトより)



【交通案内】 JR 常磐線・東武スカイツリーライン・地下鉄日比谷線・地下鉄千代田線「北千住駅」
東口 (電大口) 下車徒歩 1 分